

施設ボランティアプログラム 体験レポート

Bunkyo Gakuin University, Graduate Business School of Welfare Healthcare Services



interview | 福祉医療マネジメント研究科

オウ カイエン

王 海燕さん

王さんがボランティアで活動している「ジョブ・サポート・プラザ ちよだ」は、千代田区立の障害者就労支援施設で、千代田区九段にある区庁舎の3階に位置しています。皇居の北の丸公園にもほど近く、オフィスビルが立ち並ぶビジネス街でありながら、文化や歴史の薫り漂うエリア。王さんは、ここでどのような活動を行っているのでしょうか。

ボランティア活動のきっかけと内容

—今日は「ジョブ・サポート・プラザ ちよだ」でのボランティア活動についてお聞かせいただきたいと思います。まず、どのようなきっかけでこのボランティアに参加されたのですか？

日本の福祉現場での体験が、大学院での社会人の方々との学びや修了後のキャリアにとって非常に重要だと感じていました。ちょうどそのタイミングで、研究科からこのボランティアプログラムの案内があり、応募しました。障害者支援に関心があったので、ぜひ現場での経験を積みたいと思ったんです。



—具体的にはどのような活動をされているのでしょうか？

施設を利用している障害者の方々は、千代田区役所や企業からの委託業務を中心に、封入・封かん、封筒印刷、名刺作成などを行っています。こういった作業を直接自分で行ってみたいうえで、作業をしている障害者の方々にお声がけして、間接的にお手伝いしたりしています。

利用者の方々とのコミュニケーション



—日本語でのコミュニケーションには苦労されたことはありますか？

日本語の発音や、表現の難しさを実感します。障害を持つ方々は、当然ながら一人ひとり特性や個性が異なり、それぞれに合ったコミュニケーションの方法が必要です。私は少し引っ込み思案な性格があるので、何気ない会話をはじめ、関係のきっかけづくりに苦労しました。ただ、コミュニケーションは何も言葉を介したものばかりだけではありません。

施設が主催する音楽交流会に参加して、楽器の音色や歌声、リズムを通して、利用者の方々と積極的にかかわるよう心掛けました。集団で行う音楽は、言葉を超えて人の生

理や心理に作用し、孤立を未然に防ぐ力があると感じます。私自身この音楽の力を借りて、リラックスしながら、少しずつ障害がある方々とコミュニケーションをとれるようになってきていると思います。

—そのような経験を通じて、どんな成長を感じられましたか？

人の気持ちを汲み取る力や、それを相手に伝える力が鍛えられたと思います。日本語だけに頼らず、人と人の表情やしぐさ、感情の動きを感じながら支援することが、コミュニケーションの本質だと気づきました。

「社会とつながる窓」－施設における留学生ボランティアの役割

－山内施設長にもお話を伺いたと思います。「ジョブ・サポート・プラザ ちよだ」はどのような理念や目標を持って運営されているのでしょうか？

健康は、肉体的、精神的にはもちろん、社会的に良好な状態であることを意味しています。私たちの施設では、障害のある方々の社会参加を重視し、行政や企業からの委託業務や、出張販売会、配達、清掃、花壇管理などを通じて地域社会との接点づくりを念頭に置きながら、日々の支援を行っています。

－留学生のボランティア参加について、どのように感じていらっしゃいますか？

彼女たちの異なる背景や考え方から、ふとした気づきを得られるところがあるので、新鮮に感じる瞬間があります。これは利用者の方々も同じだと思います。留学生のボランティアや実習生が来てくれると、利用者さんにとっても大きな意味を持ちます。施設スタッフも誠心誠意サポートを日々行っていますが、利用者さんから見れば「身内」に近い存在。外国籍のボランティアや実習生は、いってみれば、施設や日本の外の社会とつながる「窓」のような存在です。心理的な安全が保たれた環境のなかで外部の人と接することによって、利用者さんも刺激を受け、生活の中に新しい風が吹き込みます。



多様なバックグラウンドを持つスタッフの役割

－言葉や文化を異にする外国籍の方々との触れ合いで、利用者の方々が緊張してしまうということはありませんか？

利用者さんにとって、相手がどこの国の人かというのはあまり関係ないです。むしろ、その人の人柄や接し方が重要ですね。実際、私たちの施設でもベトナムやミャンマー出身のスタッフが活躍し、リーダーとしての役割もしっかり果たしてくれています。外国籍のスタッフが増えることで、利用者さんも新しい文化に触れることができるのは意義あることです。


施設長からのメッセージ



ジョブ・サポート・プラザ ちよだ 施設長 山内哲也氏

留学生の皆さんがボランティアとしてかかわることで、利用者の方々の生活の質（QOL）が向上することが期待されます。QOL=Quality of life（クオリティ オブ ライフ）は、身体的な苦痛の軽減だけでなく、精神的、社会的活動を含めた総合的な活力、生きがい、満足度という意味が含まれます。職員とは異なる距離感や角度で接することで、他人との関係性にいい意味での複雑さや奥行きが生まれやすいのです。これが利用者の方々の精神的なハリや活力につながると考えています。皆さんが福祉の分野に関心を持ち、頑張ってくれることに、業界に携わる一人として、大変嬉しく感じています。今後も自分の力を信じて、多くの人々の支えとなる存在になって欲しいと願っています。

学生プロフィール

氏名	王 海燕 (オウ カイエン) (2024年度春季入学)	
出身国	中国 江蘇省	
休日の過ごし方	水泳が趣味で、スポーツセンターで泳いでいます。	
日本の好きな場所	長野の竜王です。年に2回スノーボードを楽しんでいます。	
学びの歩み	中国の大学の日本語学科で日本語を専攻し、卒業後来日。日本語教育機関で語学にさらに磨きをかけた後、2024年春に福祉医療マネジメント研究科へ入学。福祉現場における組織マネジメントやチームビルディングについて学びを深めています。	
履修科目の一例	「医療管理学Ⅰ・Ⅱ」、「フィールドワーク特講」、「グローバルビジネスと法」等 「医療管理学Ⅰ・Ⅱ」では、医療機関の運営や管理に関する基礎知識を習得し、「フィールドワーク特講」では実際の現場での経験を通じて、理論を実践に活かす力を養っています。「グローバルビジネスと法」では、国際的な視点からビジネスと関連法規についても学び、より幅広い視野を身に付けることを目指しています。	

ボランティア施設



千代田区立障害者就労支援施設

「ジョブ・サポート・プラザちよだ」

所在地：東京都千代田区九段南1-2-1 千代田区役所3階

<https://team-jsp.com/>

千代田区立の障害者就労支援施設で、平成19年に千代田区庁舎の3階に設立されました。施設では利用者の社会参加を重視し、就職活動支援をはじめ、行政や企業からの委託業務、出張販売会、配達、清掃、花壇管理などを通じて地域との接点を広げています。

運営法人の基本理念「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」に基づき、障害者の「はたらく権利の回復」を通じて、「絆社会の実現」を目指しています。